

## 第5回 碧南市子ども・子育て会議 会議録

### 日時

平成27年2月24日（火）午後14時00分から

### 場所

碧南市文化会館 5階研修室1

### 出席者及び欠席者

#### (1) 出席委員

中根潮美、鈴木美香、水野裕子、板倉尚子、水野博史、中根孝明、近藤友香、大河内裕子、石川陽子、杉浦幹夫、山田淳二、黒坂徳弘、野々村尚道、栗並えみ、藤井理沙、大岩みちの（委員兼アドバイザー）

#### (2) 欠席委員

杉浦紀政、菅原優、中村勝則、加藤美保子

#### (3) 事務局職員

福祉子ども部長 鈴木重幸、子ども課長 鳥居典光、子ども課指導保育士 鈴木正枝、子ども課指導主事 古市幹子、子ども課幼保係長 杉浦英樹、子ども課育成支援係長 石井香代、子ども課育成支援係 担当係長 亀島有香

### 傍聴者

2人

### 議題

#### 1. あいさつ

#### 2. 議事

- (1) 子ども・子育て支援事業計画（案）について
- (2) その他

#### 3. その他

#### 4. 議事

##### (1) 子ども・子育て支援事業計画（案）について

事務局より、「子ども・子育て支援事業計画（案）」について説明を行った。その後、審議した結果、事務局案が了承された。

<主な意見・質疑>

##### 【A 委員】

パブコメの1番について、市の考え方で就労時間を引き下げるとあるがどういう意味か。

##### 【事務局】

国では今回の新制度を実施にあたり就労の最低時間を設定していて、その範囲内で自治体で決定するという事になっている。3歳未満の保育の受け入れの基準を、10年間の間に、現行の120時間から60時間までに緩和することを予定している。経過措置として、10年間徐々に下げていくことを想定している。

##### 【B 委員】

計画と直接関係があることはないが、児童クラブ等整備する際、ただ入れ物をつくるだけではなく、学校が終わってくつろげるような状況があるとよい。少し工夫をし、学校が終わった後ほっとできる環境があるとよい。必要最低限のスペースのみではなく子どもに居心地がいいように配慮していただきたい。

##### 【事務局】

参考にさせていただく。

##### 【会長】

現場では学校と違う一面を見せていると思う。現場からの声も重要視し、少しでも吸い上げていただけるとよい。

##### 【講評】

パブリックコメントのひとつめについて、乳児の受け入れ拡大が必要な場合はという表現があるが、市の量的な問題はないが、先生方の保育に対する姿勢について、できるだけ乳児もいたほうが保育士の成長も促せるのではないかと感じる。なにかきっかけがあれば乳児保育にも可能な限り取り組んでいただけるとよい。必要になってからでは保育が担保できない。あらかじめ準備していただき、ハートフルな碧南市になっていただきたい。なるべく人とかわかっていくことで市として温かくなると思う。

##### 【会長】

先日の社会福祉大会の記念講演で矢野きよみさんが発言されていたが、つながりが大切だ

とおっしゃっていた。そこが碧南市の強い大きな力になっていくとよい。

## (2) その他

<主な意見・質疑>

### 【A 委員】

計画を運用する段階で、その後のチェックをしっかりとやっていっていただきたいと思う。また、まず箱（施設）をつくり、中を充実するということが重要であるが、さらに指導員等の従事者についても重要な視点である。研修などをどのようにしていくか、国としても議論していくと思うが、児童クラブの指導員については、市として研修を充実するなど、計画にはあらわれていないが人の質の確保は重要なのでしっかりしていただきたい。

### 【C 委員】

保育園の0歳児長時間保育がパブリックコメントでよせられているが、どこの学区で0歳児受け入れているのか。たとえば大浜、日進学区ではどうか。

### 【事務局】

大浜地区は大浜保育園で受け入れをしている。日進保育園については0歳児保育を実施していない。

### 【C 委員】

この学区で0歳児を預けようとする、越境になると思われる。年少クラスでも半分ほど越境している状況である。これでも保育の需要を満たしているという考えか。

### 【事務局】

3～5歳については学校とのつながりの中で、学区の重要性を加味している。ただし、3歳未満については、学校区単位とすると施設整備などが多く必要になる状況もある。他市の例で言えば乳児園として、乳児だけ集めているような状況もあり、3歳未満と以上で区分けしている施設も事例がある。

### 【D 委員】

児童クラブの利用が多くなることを見込まれ、それに応じた予算等を確保していただき感謝している。今後の将来を考えるのであれば、心を育てるための人員の増員が重要なのではないかと感じる。乳児から小学校へ上がるまでの間が重要な成長段階である。十分な愛情・栄養・環境を与えていくことが重要である。幼保小連携で交流する場を新たに つくっている。小学校との接続をどのようにしていくかは難しい問題である。0歳から6歳までは非常に成長の幅が広く、一緒に保育をしていくことは難しい。施設も細

かい段階で設定されるのであれば、それに関わる人員もそれぞれのプロフェッショナルが位置づけられればさらによいものができるのではないか。

**【C 委員】**

P 1 6 について、中央中学校が載っていないようなので、掲載いただきたい。

**【E 委員】**

保育園が一緒でも、小学校が別々となるケースがあるが、その後中学で再会するような事例もある。子どもとしてはそのようなケースも前向きに認識していることがあるように思う。

**【F 委員】**

病児・病後児保育について必要に応じて検討するとあるが、どのように検討されるのか。

**【事務局】**

協力いただける医療機関が無い限り実現が難しい。医師会を通じて連携していくことになると思う。

**【F 委員】**

即座には動けないと思われるため、今のうちから前向きに進めていただきたい。

**【B 委員】**

保育の場合、病児・病後児保育が充実することも重要であると思うが、なるべく保護者が見ていくことが重要である。サービスをいかに充実させることよりも会社や社会が子ども優先で考えることのほうが重要であると思う。社会的な認識が地域全体に広がるとよい。

**【会長】**

今のご意見は皆様もっていると思うが、何か形になっていければよい。企業の取り組みが必須となると思う。

以上